

ちえん

季刊

東海大学と地域が創りだす、地の縁・知の園・地の宴。

Chi·e·n

子どもたちの歓声が天まで届く

こどもの日に合わせて
イベントを開催するスポーツ社会貢献プロジェクト

大空の下でレクリエーションを楽しむ
子どもと学生との貴重な時間

体を使った遊びを通じて
子どもたちが自然の中に溶けはじめる



5月5日「第40回秦野子ども祭り」

02-03

第5回“ちえん”をつくる人々
湘南里川づくりプロジェクト

04-05

TOKAI探訪記
Vol.5 PA型授業を体験!
第五回 ちえん川柳

06-07

つかのはらいそ通信
大学と地域の連携活動をご紹介
International Students' けしゅく Life
日本語だけでなく、日本人らしさも習得! ? デザインを学ぶ謙虚な学生

08

学生街のトマソン
湘南キャンパスの屋上で電気をつくり続ける4枚羽の風車
「直線翼垂直軸型風車」
Information

TAKE FREE

July 2018

Vol.5

東海大学地域連携紙「ちえん」(湘南版) Vol.5
発行日 / 2018年7月10日
発行 / 東海大学地域連携センター
後援 / 平塚市、秦野市、伊勢原市、大磯町



**第5回 “ちえん”をつくる人々
「湘南里川づくりプロジェクト」**
「湘南里川づくりみんなの会」

よりよい里川を次世代に引き継ぐために——教養学部の藤野裕弘教授が会長を務める「湘南里川づくりみんなの会」が中心となり、東海大学の学生や教職員、地域住民が連携して金目川水系の保全・活用に取り組んでいる。昨年度まで5年間はTo-Collaboプログラム※の採択を受け、年1回の「湘南里川づくりフォーラム」開催のほか、子どもたちを対象とした自然観察会など“里川”にかかわるさまざまな活動を開催してきた。今年度からは平塚、秦野、伊勢原の3市で意見交換などを目的とした湘南里川づくり地域フォーラムも順次開催。プロジェクトに携わる3名に、これまでの活動や今後の展望を語ってもらった。
※平成25年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」に採択された、地域特有の問題や共通課題を各校舎の学部、学生、研究者が共有し、協力して解決策を見い出す取り組み

ネットワークを築き、活動を継続・発展する



湘南里川づくりみんなの会会長
東海大学教養学部人間環境学科自然環境課程 藤野裕弘教授

「湘南里川づくり」は、神奈川県西部を流れ相模湾にそそぐ金目川水系の河川（金目川、水

無川、鈴川）等を地域の貴重な財産とし、できるだけよい形で次世代に引き継いでいくために、市民と行政の協働でその保全や活用に取り組む活動のことを指します。もともと流域レベルでのさまざまな交流や情報交換の場として「金目川水系流域ネットワーク」があり、私はずっとかかわってきました。2011年5月に平塚、秦野、伊勢原の3市が神奈川県の立ち合いで調印し、「湘南里川づくりみんなの会」が立ち上がりました。以来、会長を務めています。

金目川流域では、さまざまな市民団体が生物観察会や流域ウォーキング、バードウォッチング、草刈りや清掃などの活動をしていますが、団体間のつながりはそれほど強くはありませんでした。そこで、各団体が行っている活動そのものに取り組むというよりは、団体・個人がコミュニケーションを図り、ネットワーク化を進めているのが「みんなの会」の主な活動目的です。

「みんなの会」では、東海大学と連携して「湘南里川づくりフォーラム」を湘南キャンパスで開催しているほか、教養学部の選択科目に『湘南里川づくり地域共生プロジェクト』があります

から、学生はそうした場に参加することで、学外の人たちとの接点が持てます。さらに、卒業研究や修士論文に関連した情報を地域の方から得られますから、「みんなの会」は大学にとっても有益だと考えています。

ただ、活動する団体によって目的が異なるわけですから、複数の団体が相互に連携するといつても簡単ではありません。たとえば、清掃活動をする団体と生物の種の多様性を守ろうとする団体とでは、河川での活動内容が異なります。どう折り合いをつけるかという問題題にぶつかりますが、正解はなく、結局は流域に住んでいる人たちの思いが河川環境の行く末に重要になると想っています。

今後は、啓発や里川づくり活動の普及をさらに押し進めるために、小規模のフォーラムを各地で、より回数を増やして開催していきます。フォーラム以外で質の異なる活動についても増加を図っていきたいですね。多くの人に知ってもらうことで、「みんなの会」や里川づくりの継続、発展につなげていきたいと思っています。

各団体や学生のエネルギーをまとめ、よりよい里川に



フォーラムには毎回多くの学生や地域住民が参加し交流を図っている

私は教養学部人間環境学科自然環境課程、大学院人間環境学研究科人間環境学専攻に在学し、藤野先生の研究室に所属していたので、そのころから「湘南里川づくりフォーラム」の企画運営に携わってきました。大学職員として就職が決まったとき、藤野先生から「大学で働くのであれば一緒にやってみないか」と声をかけていただき、里川づくりにかかわってきました。当初は「NPO法人東海大学地域環境ネットワーク」で卒業研究や修士論文に取り組む学生をサポートしていましたが、地域での環境学習や地域資源を利用した地域活性化に向けて長期的に活動する「湘南里川づくりみんなの会」とも連動してくるので、学生がより活動しやすくなるように2015年から2年間、「みんなの会」の役員としてフォーラムなどのイベントを運営

することで、学生と地域の方々との橋渡し役も担ってきました。

これまで、「金目川をどうしたらもっとよくできるか」と考えながら活動してきましたが、流域で活動している方々とフォーラムで一堂に会すると、ほとんどの方が“金目川を大事にしたい”、“よくしていきたい”という強い気持ちを感じます。そのエネルギーをもつとうまくまとめていけたらいいと訴え続け、ようやく今年の6月に「湘南里川づくり地域フォーラムin秦野」の開催に至りました。今後、平塚市、伊勢原市でも同様のミニフォーラムを開催していくと聞いています。私自身は「みんなの会」の役員は退いていますが、ミニフォーラムが始まったことは一つの大きな成果と言える気がします。

さまざまな団体の活動は現在、中高年の世代が



学生が金目川に関する研究を発表



東海大学研究推進部研究計画課職員 松本晃一さん

中心になっています。これからは若い学生にも、卒業研究などのためだけでなく、自ら考えて行動を起こしてほしい。NPOでも、これから何を学ぶか決めていく1、2年生を集めて、自分たちは何ができるのかを一から考えてもらう取り組みを始めています。私自身も今までの経験を糧に環境カウンセラーの資格を取得しましたが、学生たちも活動を継続することで環境カウンセラーや環境教育インストラクターの取得を目指しています。そのような学生たちがさらに子どもたちに活動を引き継ぎ、継続性を持たせていけるようになるのが理想です。

昔懐かしいきれいな川を子や孫に伝えたい



湘南里川づくりみんなの会副会長
有限会社小巻環境サービス代表取締役 小巻慎吾さん

私は産業廃棄物処理業を営んでおり、仕事の流れで秦野市から「河川敷を有効利用してくれないか」と話があり、「それでは花壇でも作りましょう」と市と連携しています。具体的には、毎年5月と10月には市で購入してもらった花の植え替えを、また夏と冬では活動の頻度が変わりますが、20名ほどの社員総出での草むしりを、平均すれば2カ月に1回程の活動でしょうか。

「湘南里川づくりみんなの会」は、さまざまな人たちが所属しており、学生と話す機会も

多い。私はもともとCSR（企業の社会的責任）の一環として里川づくりに取り組んできましたが、「みんなの会」にかかわり、副会長になってからは、我々大人と学生が共存共栄していることを強く感じています。「みんなの会」は、大学が持っている知識や教養、教育のプロセスなどを取り入れながら活動していますから、私自身も大いに勉強になりますし、里川づくりの中で学生を指導できることもあります。世代をこえて教えたり教えられたりできるのが、里川づくりのよいところだと思います。

また、地域ごとに始めたミニフォーラムは、それぞれの特性や地域の人たちの思いを直接聞くことができるという長所があります。この地区の人はこう思っているな、あの地区の人はこう考えているなというのが見えてくる。でも、みんながバラバラなことを言っているわけではなく、



グループディスカッションで活発な議論が交わされた

最終的には「きれいで昔懐かしい川を私たちの子や孫に伝えていきたい」という、きちんとつながった縁があるのです。皆さんの自然に対する意識がそれだけ強くなっているのでしょう。

山に降った雨は地下水となって流れ、川となって海にたどり着きます。その海の水が雨となってまた山に降る。その循環の中で、山と海をつなげるのが川です。里川づくりの活動も、意見交換や情報共有をしながら助け合い、一丸となって一つの輪にしていくことが求められていると思います。リサイクルや自然循環は一つのサークルですから、「輪っか」にしていかないとうまく回っていきません。今、盛り上がりつつあるこの市民運動を、我々企業は委縮させないために行政による側面からの応援を得ながら今後も後押ししていくつもりです。



今年度から地域特性に合わせた内容のミニフォーラムを開催

第五回 ちえん川柳

ちえん川柳“とは、東海大学と地域とのかかわりをテーマとする川柳です。ご応募いただいた川柳の中から、選定された作品をご紹介します。

特選

優秀

入選

随時
募集中！

次回の締め切りは
9月13日(木)

バス利用 じじばばせんせい セレブ女子

宗像市 構つてくんさん 22歳

彼氏より スマホに構う 女子学生

秦野市 ハムバーさん 78歳

忘れるな 親の思と 地元の愛

平塚市 じろう猫さん 40歳

学生が 長期休暇で 店休業

秦野市 駒子さん 76歳

助かつた エスカレーター 壊すぎる

海老名市 後藤姫風乃さん 18歳

お弁当 買うなら駅前 商店街！

座間市 キュウリー夫人さん 26歳

紺生む 地縁つなげて 心つなぐ

秦野市 忍くんさん 39歳

駅からも 大学内でも 坂登る

秦野市 留子さん 18歳

留学生 国に帰らず 店開業

川崎市 かんけんさん 73歳

学生の 見た目で年齢 わからない

奈良市 みんこじさん 22歳

9時始業 満員電車で 父子遭遇

秦野市 減量中さん 46歳

学び舎の 東海ちえん 本靈する

伊勢原市 田中良平さん 73歳

部屋干しで カーテンレールが 壊れたよ

秦野市 カワシマさん 18歳

恵覚悟 投稿してみ ちえん紙に

平塚市 未完成さん 68歳

銅像と 樹に覗く 富士の山

平塚市 渡邊詩恩さん 18歳

今日のゲスト

地域連携センター地域連携課
地域コーディネーター
山口さん

政治経済学部卒業生！
当時は車で通学していた。
今年3月まで伊勢原市役所勤務。

教員志望の学生が
多く受講されています。
『集い』(地域)の担当
現代教育センター
堀本麻由子先生

ことさ調べる
アドバイスをおね山口さん！
外国人観光客を
増やすアドバイスを
考えています。
伊勢原市
ひととこで2年間。
わざわざ

※2018年度から授業時間が
90分から100分になりました。

理論と実践を両立させた
『参加型授業』を目指しています。

文部科学省英語文化コミュニケーション学科
保坂華子先生

論を身につける授業。

自分とは違う
ことを教えてください。

ぶ！

む

実践&体得！！

X

んは
かを考え
ざまなこと
ます。

二つも考へ方を
あらわすのかな？

ふむふむ

この考へ方も
いいわ！

X

ふむふむ

これも授業に来ますよね？

宿題もききますよね？

ふむふむ

学生さんも
温かく
迎え入れてくれました。

えっ

ふむふむ

ふむふむ

ふむふむ

ふむふむ

ふむふむ

ふむふむ

ふむふむ

いやあ、3ヶ月なんてあっという間ですね。皆さん、元気ですか？ それにしても今回の作品は“坂”“バス”“電車”など通勤通学ネタが多いこと。でもさ、若い奴は少しぐらい歩いてくんないとな。立ち止まつたらすぐスマホ見ちゃうでしょ。歩きスマホも危ないけど、会話のないスマホデートもどうなのよ？

そういえば4月から大学は9時開始になったんだ。学生も大変だけど、先生方も大変ですね。でもさ、漁師の朝は1時2時。通勤手段は望星丸と同じ船。夜明け前に船を繰り出し、スマホ代わりにレーダー探知機とにらめっこ。船の上では無数の星がキラめいてるぜ！ どうよ、今度一緒に船に乗らない？ そこのセレブ女子。(ひらつかタマ三郎)



つかのはらいそ通信

平塚市、秦野市、伊勢原市、大磯町の3市1町(つか・の・はら・いそ)
において実施された大学と地域の連携活動をご紹介します。

ひらつか

平塚市緑化まつりを 学生がサポート



教養学部芸術学科デザイン学課程の3年生が4月28日、45回目の開催を迎えた花と緑の祭典「平塚市緑化まつり」で、毎年恒例となった「ベジ太ブース」(出展:平塚市産業振興部農水産課)をサポートした。会場の平塚市総合公園の芝生広場にはほかにも、平塚市観光協会ブースの「タマ三郎のぬり絵コーナー」や「ベジタマもなか販売ブース」なども出展されており、学生たちは各ブースと連携を取りながらぬり絵やアンケートに参加した子どもたちに粗品を手渡す受付を手伝った。

ウォーキングで親睦を深める

東海大学チャレンジセンター「スポーツ社会貢献プロジェクト」が6月2日に、リフレッシュプラザ平塚で開催された「リフレッシュプラザ平塚ノルディックウォーキング教室」に初めて協力した。このイベントは地域貢献の一環として、参加者と東海大生の親睦を深めることが目的。当日は、平塚市在住の10名が参加し、プロジェクトメンバー16名が指導。参加者一人ひとりにプロジェクトメンバーも1人ずつ対応し、会話を楽しみながら1時間程度約2.5kmをウォーキングした。



野外彫刻の保存と活用について議論



課程資格教育センターが6月17日に平塚市美術館で、野外彫刻の保存と活用に関する公開シンポジウム「湘南ひらつか野外彫刻展のゆくえ 岐路に立つ彫刻」を開催した。大学と行政だけではなく平塚市に設置されている野外彫刻の作者や市民を交え、地域の文化資源である野外彫刻の保存と活用について議論することを目的に企画されたもの。平塚市職員や市民ら約60名が参加した。午前中に平塚市役所周辺の野外彫刻の見学ツアーが行われ、午後のシンポジウムでは登壇者や市民らが活発に意見を交わした。

はだの

図鑑『金目川の魚類』が完成



教養学部人間環境学科自然環境課程を3月に卒業した西巻肖さんが卒業研究として制作した図鑑『金目川の魚類』が完成した。西巻さんが所属した同課程の北野教授のゼミでは「金目川水系流域ネットワーク」と協力して、金目川で研究活動や子どもたち対象の観察会を13年にわたって実施してきた。西巻さんは約1年間、何度も金目川に通い、魚を採集して水系ごとの分布と生息環境を調査した。図鑑は今後、観察会などで活用されるほか、秦野市内の小学校などに配付される。

学生が幼稚園で絵本を読み聞かせ

東海大学チャレンジセンター「病院ボランティアプロジェクト」が6月6日に、秦野市立大根幼稚園で「絵本の読み聞かせ会」を実施した。子どもたちに健康の大切さを教えることを目的に2016年度から年間3回程度行っているイベント。おやつを食べて青虫が成長していく『はらべこあおむし』や、同プロジェクトが作成した『みんなのげんきのひみつなに』など3冊の絵本を読み聞かせた。子どもたちからは「また来てね」「次も楽しみ」といった声が聞かれた。



復興支援の活動内容を紹介



東海大学チャレンジセンター「3.11生活復興支援プロジェクト」が6月9日、小田急線・東海大学前駅の南口広場とTOKAIクロスクエアで開催された「いぬねこLOVEミーティングin東海大学前～犬も猫も人も暮らしやすい秦野(まち)っていいな♪～」(主催:湘南犬猫協議会)で活動を報告。東日本大震災の被災地で展開してきた活動内容などを紹介した。会場ではそのほかにも、講演やワークショップを開催。南口広場では「ペットの災害対策のヒント」「ペットグッズや日用品、復興支援品のバザー」などのブースが設けられた。

いせはら

市民の健康や体力の 増進を学生がサポート

体育学部生涯スポーツ学科の学生6名が、4月14日に伊勢原キャンパス2号館アリーナで実施された「平成29年度東海大学健康クラブ」のウォーキング教室「楽しく歩いて、脳元気！」の運営に参加した。講座は東海大学と伊勢原市との協定に基づく提携事業の一つとして、市民の健康や体力の増進を目指して2009年度にスタート。今回は、同学科の八田准教授のゼミに所属する4年生と、同学科の1年生が八田准教授の指導に沿ってウォーキング体験をサポートした。



科学の面白さを通じて 地域とつながる



東海大学チャレンジセンター「サイエンスコミュニケーションセンター」が5月4、5日に、伊勢原市立子ども科学館で開催された「開館30周年記念事業 子ども科学館フェスティバル2018」(主催:伊勢原市立子ども科学館)で実験ショーを実施した。同プロジェクトは科学の面白さを通じて地域の方々とのつながりをつくることを目的に、2013年から毎年出展している。今回は「声のおもちゃ」「フーフーボール」「人工いくら」の実験を披露し、2日間合わせて433名が来場した。

有志学生が観光PRグッズをデザイン

神奈川県湘南地域県政総合センターが実施している「大学連携事業」の一環で、2017年6月に観光学部観光学科の屋代教授(当時、現・非常勤講師=写真右)の呼びかけで応募した学生4名が、大山地域と大磯地域をPRするためのクリアファイルをデザインした。学生たちは、昨年の夏季休暇中に現地調査を行い、各地の印象や情報をもとにデザインを考案。3月23日に完成品を受け取り、代々木キャンパスで同センターの職員に向けてデザインコンセプトなどを説明した。



おおいそ

快適 学生4コマ漫画 作・青田みい I・MA・DO・KI



International Students' げしゅくLife

「げしゅくLife」では毎回、東海大学に在籍する留学生を紹介!
日々の暮らしや将来の夢など、留学生たちの思いをインタビューさせてもらっています!
さて、今回ご登場いただく留学生は……?

日本語だけでなく、日本人らしさも習得!? デザインを学ぶ謙虚な学生

アルカタニ ワリドさん／Alqahtani Waleed(愛称・ワリド)
(教養学部芸術学科デザイン学課程2年／出身: サウジアラビア王国)

2016年1月に来日したワリドさん。実は、これが彼にとって初めての海外渡航。日本の生活は謎に包まれていたそうですが、「日本のキャンパスライフはもっと謎だらけ」。母国では、中東の国々の中でもトップクラスの大学に通っていましたが、高まる期待を胸に、いざ来日してみると……とっても大変!

来日してから日本語学校で2年ほど学びましたが、大学での授業が始まるとキャンパスライフの厳しさを痛感。「教科書を読めば習っていない言葉の数々に意気消沈し、自分の考えを伝えることが求められるデザインの実習授業では、言いたいことがあっても言葉にできないもどかしさにとてもストレスを感じている」とのこと。しかしどんな時で

聞き慣れない言葉は
メモに残して覚えるくせをつけている▼



課題に取り組むワリドさん▲

も常にスマホを片手に持ち、聞き慣れない言葉はメモして勉強しています。

「幸運なことに今まで出会った日本人はみんないい人ばかり。前向きに生活できている」と語るワリドさん。彼の日本語は日本人が聞いても上手なのに、なんだか謙虚な姿勢が日本人っぽい。聞いてみると、アラビア語、英語、日本語を使い分ける際に、言葉ごとに異なるキャラクター性が出てしまうのだとか。アラビア語、英語を話すときはとても明るく、ジョークを交えながらズバズバと切り込むタイプ。その一方で、日本語を使う時の彼は……本人いわく「遠慮がち」。日本語を勉強しているうちに、性格も日本人らしくなったみたい!? 日本人の友達にも母国語を使うときのように振舞いたいと思うながらも、相手に失礼になってしまわないかと尻込みしてしまうんだとか。

将来の夢は「日本でエンターテインメントにかかる仕事をすること」。今はデザイン学課程で基礎を学び、ゆっくりと将来を決めていきたいとのことです。

「トマソン」とは、前衛芸術家、赤瀬川原平(1937年-2014年)らの活動“路上観察学”の中から生まれた、変わったマンホールの蓋や看板、建築物や構造体など、意味は不明だが何かを語っている物体の意。

“ちえん”の路上観察学

学生街のトマソン

湘南キャンパスの屋上で電気をつくり続ける4枚羽の風車 「直線翼垂直軸型風車」



ディズニーランドとほぼ同じ面積である湘南キャンパスでは、“これなんだ？”と思える物体をよく見かける。風の強い日に17号館の屋上でカラカラと回り続ける4枚羽の大きな風車もその一つ。その物体の正体を知るために、設置時の詳細を知る東海大学の研究推進部研究支援課の出野さんを訪ねた。

出野さんによると「これはプロペラ風車と同じように、翼に働く揚力で回る風車で、風に向く必要がないので発電ロスや騒音が少なく、効率よく発電することができます」とのこと。風車の正式な名称は『直線翼垂直軸型風車』で、風車を含めた全体のシステムで発電している。2009年3月から電力の供給を始めた風車の高さは、支柱を含め約9m、翼の高さだけでも2mになる。

風速11m/sで家庭用エアコンを1時間フル稼働させると必要な1000Wを出力することができ、今でも年間約90kWhの電気をつくり学内に供給している。風車から送られる発電量は、中央通り沿いのインターナショナルカフェのロビーにあるモニターでリアルタイムに見られるようだ。

風車開発は、東海大の総合科学技術研究所に在籍していた関和市元教授(現在退職)の研究成果で、東海大の知的財産権を使用しエネルギー・プロダクト株式会社が販売しているもの。

「17号館の屋上に設置した理由は、広い場所が必要だったこともありますが、産学連携に携わる部署が17号館にあったので、その成果を見せる場所としても適していました」と出野さん。その意味では、風車は東海大の研究成果を象徴するモニュメントでもある。少し離れたほかの校舎や丘の上からは活発に動いている姿を見ることができる。

1号館屋上から望む風車

Information

トコラボシスターズからのお知らせとご案内

地域連携イベント

定期映画上映会「学前夕暮れシアター」

「ここではない、どこかと映像でつながる」をテーマとした学生による映画上映会。今年度も開催中!

日 時	第4回 7月19日(木) 第5回 9月20日(木) 第6回 10月18日(木) ※8月は開催なし 17:00開場／17:30開演～20:00終了予定 上映作品は決まり次第、クロスクエアのWEBページ等でお知らせします
主 催	文化社会学部広報メディア学科 水島研究室
定 員	各回30名程度 お申し込みは不要です。お気軽に立寄りください



会 場	TOKAIクロスクエア



学前夕暮れシアター公式Twitterでも情報をお知らせしています

◀@gakumaetheater

ちえん川柳募集中!

地域と大学のつながりをテーマとした「ちえん川柳」を随時募集しています。選ばれた作品は本紙に掲載します。応募は、メール・郵送・TOKAIクロスクエア川柳投函ボストンへ。たくさんのご応募お待ちしております。詳しくは、WEBまたはTOKAIクロスクエアへお問い合わせください。

地域連携紙「ちえん」の設置場所

東海大学近隣の自治体の施設、地元企業、公民館等約60カ所で配架しています!

■専用ラックの設置場所募集中! 本紙「ちえん」の専用ラックを設置していただける施設やお店を募集しています。東海大学地域連携センター地域連携課までお問い合わせください。TEL:0463-50-2406 E-mail:chiiki@tsc.u-tokai.ac.jp

TOKAIクロスクエア 利用者募集中!

地域の皆さまのサークル活動の展示会や発表などのスペースとして無料でご利用いただくことができます。
(会期1カ月前までの予約が必要です。)
詳しくは、WEBまたはTOKAIクロスクエアへお問い合わせください。

TOKAIクロスクエア

〒257-0003 神奈川県秦野市南矢名1-3-5

TEL ☎ 0463-78-5188 FAX ☎ 0463-78-5189

WEB ◀ https://coc.u-tokai.ac.jp/crossquare

地域連携紙「ちえん」次号は10月の発行予定です。

